埼玉アーツシアター通信

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.84

2019.12-2020.1

阿部 寛 ヘンリー八世

Noism Company Niigata
バットシェバ舞踊団
ベアトリーチェ・ラナ
サー・アンドラーシュ・シフ

25th SAITAMA ARTS THEATER

Tribute to 蜷川幸雄
11

瑳川哲朗

50歳過ぎてからの最高に面白い20年

さがわ・てつろう
早稲田大学を卒業し劇団青俳に入団。退団後は「大江戸捜査網」「ウルトラマンA」、NHK大河ドラマなどの映像作品、蜷川演出作品などの舞台で活躍。劇場運営や演劇祭を催すなど、演劇文化を広める活動にも尽力。
撮影◎岡田貴之　提供◎ホリプロ

取材・文◉川添史子

数多くの蜷川作品、中でもシェイクスピア劇を支えたベテラン瑳川哲朗さんと蜷川さんとの出会いは20代、劇団青俳時代にさかのぼる。

「当時の印象？ よく本人も『貴族俳優と呼ばれていた』と言っていましたが、周囲とは違う雰囲気……やっぱり生意気だったと思いますよ（笑）。当時は8ミリで撮る前衛映画が流行していて、『一緒に出よう』と誘ってもらったり、後輩の僕を可愛がってくれた記憶があります。自分も生意気でしたし、波長が合ったんでしょう。彼が劇団を辞めて演出を始めたころも『お前ともやりたいけど、方向性が違うからな』なんて言ってましたね。当時僕は東宝や新派の舞台なんかに出ていましたけど、腹の中では『一緒にやりたい』と思っていました」

“その時”がやって来たのは50代終わり。『夏の夜の夢』で初めて蜷川作品に参加した。

「石庭のような舞台美術、上から降る砂、地面から登場する妖精たち。僕が演じたオーベロンの冠は蜷川さんの手作り。舞台の花も俳優たちで手入れをし、みんなでの共同作業のようでした」

『ハムレット』のクローディアス、『ロミオとジュリエット』のロレンス神父、『エレンディラ』の祖母。劇場に響く声、劇空間を引き締める存在感で、生命力みなぎる蜷川作品の人物を次々と演じた。演出家からは「人間は年をとればとるほど欲望が充満する。日本ではベテラン俳優が“枯れた演技”と評価されるけど、お前は絶対にそうなってくれるな」と言われていたとか。瑳川さんの持つエネルギーが、あのダイナミズムを支えていたのだろう。「もっと早く一緒にできていたら、マクベスをやりたかったなぁ！」と口惜しそうに笑うが、長年の盟友との、特別な関係性を物語るエピソードを教えてくれた。

「『夏の夜の夢』ロンドン公演の合間に、カフェでお茶を飲んでいたら蜷川さんがふっと寄って来て『俺たちの仕事は一作一作のクオリティが勝負で、その積み重ねしかないんだよな』と感慨深そうに話していました。それで『お前幾つになる？』と言うから、『もうすぐ60だよ』と答えたら『まだ4、5年は大丈夫か』って言うんだよ（笑）。『それしか持たないのか!?』と内心憤慨しましたけど……のちに二人の想いが『エレンディラ』で実現できたと自負していますし、一緒に、最高に面白い20年を過ごさせてもらいました」

彩の国シェイクスピア・シリーズ第5弾『夏の夜の夢』（2000年）　Photo◎高嶋ちぐさ

『エレンディラ』（2007年）　Photo◎清田征剛　提供◎ホリプロ

彩の国さいたま芸術劇場開館25周年記念

上）横断幕の書はコンドルズ・メンバーで書楽家の安田有吾さん
下）『蜷の綿 -Nina's Cotton-』10月15日カーテンコール

CONTENTS

4　PLAY〉　彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾
『ヘンリー八世』

6　PLAY〉　彩の国さいたま芸術劇場開館25周年記念
『蜷の綿-Nina's Cotton-』リーディング公演
＋関連企画『Tribute to 蜷川幸雄』レポート

8　PLAY〉　『BED』ロンドン公演レポート

10　DANCE〉　Noism1+Noism0
森 優貴／金森 穣 Double Bill

12　DANCE〉　バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『Venezuela―ベネズエラ』

14　MUSIC〉　ピアノ・エトワール・シリーズVol.38
ベアトリーチェ・ラナ ピアノ・リサイタル

16　MUSIC〉　サー・アンドラーシュ・シフ ピアノ・リサイタル

18　MUSIC〉　大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”
Vol.3 “平均律 wohltemperiert”の謎

19　REVIEW

20　イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ

23　INFORMATION

24　COLUMN〉林家彦いちの〝一歩外へ〟

編集◎川添史子、榊原律子　表紙画◎波多野光　デザイン◎GOAT

© 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1. Dec. 2019 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

※掲載情報は、2019年11月15日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾
『ヘンリー八世』

阿部 寛

Interview

5年ぶりの挑戦にふさわしい作品

彩の国シェイクスピア・シリーズ『シンベリン』、『ジュリアス・シーザー』にも出演した阿部寛が、同シリーズに再登場！
タイトルロールを演じる意気込み、吉田鋼太郎演出を初めて体験することへの期待を語った。

取材・文◉上野紀子（演劇ライター）　Photo◉宮川舞子

阿部 寛
Hiroshi Abe

1987年に映画デビュー。舞台は、1993年～6年間、つかこうへい作・演出の『熱海殺人事件～モンテカルロ・イリュージョン』に出演、その後、蜷川幸雄演出の『新・近松心中物語』『道元の冒険』『THE COAST OF UTOPIA-ユートピアの岸へ』に出演。彩の国シェイクスピア・シリーズには『シンベリン』『ジュリアス・シーザー』（共に蜷川幸雄演出）に続いて3作目の出演となる。

彩の国さいたまシェイクスピアシリーズ第29弾
『ジュリアス・シーザー』　Photo◎引地信彦

チケット販売中

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第35弾
『ヘンリー八世』

2020.2.14（金）～3.1（日）〈全19回〉　彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
［作］W.シェイクスピア　［翻訳］松岡和子
［演出］吉田鋼太郎（彩の国シェイクスピア・シリーズ芸術監督）
［出演］阿部 寛、吉田鋼太郎、金子大地、宮本裕子、山谷花純、谷田 歩、河内大和 ほか
チケット（税込）一般 S席9,500円　A席7,500円　B席5,500円
U-25*（B席対象）2,000円／メンバーズ S席8,600円　A席6,800円　B席5,000円
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

	2.14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日・祝	24 月・休	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土	3.1 日
13:00		★	★	●	休	●	●	●	★	★	★	休	☆	●	●	★	★
18:30	●				演	●			★			演	☆			★	

★＝さいたまアーツシアター・ライヴ!! 開催日　☆＝映像収録のため場内にカメラを設置します

STORY
英国王ヘンリー八世（阿部寛）の宮殿では、国王の寵愛を受けながら策略を巡らす、ウルジー枢機卿（吉田鋼太郎）が勢力を強めている。王はウルジー邸の晩餐会で王妃に仕える女官アン・ブリンに心奪われ、王妃キャサリンとの結婚を無効にしようと離婚裁判を起こすが……。

――5年ぶりの舞台出演ですね。

はい。シェイクスピア全37作品を演出されるという蜷川さんの企画を、吉田鋼太郎さんが引き継ぐということで、ぜひ参加したいと思いました。蜷川さんの遺志を継いで作る舞台に出られるのは、非常に名誉なことです。それもシェイクスピアの世界を知り尽くしている吉田鋼太郎さんがやるわけですから。

――阿部さんが演じるタイトル・ロールのヘンリー八世は、権力争いのほか自身の離婚問題などで周囲を翻弄していく王様です。

これまで上演される機会の少ない作品で、蜷川さんも後回しにしていた難しい作品。原作では八世の内面はあまり描かれていない。むしろ枢機卿ウルジーの策略を通して八世の人物像は見えてくるし、知的で内面的なセリフがない分、翻弄されて側近にだまされるだけの王にならないよう難しい芝居が要求される。どう見せていくのか、さまざまなアプローチがあるだろうと。でも、55歳である今の僕にこうしたハードルの高い役を与えてもらえることは歓迎すべきことだし、ありがたい挑戦だなと思っています。

――鋼太郎さんは本作の演出を手掛けるとともに枢機卿ウルジー役で出演されます。共演者として、どんな魅力を感じていますか？

舞台を縦横無尽に、本当に気持ちよく荒らしていく人といったイメージかな（笑）。自分の手の内にすべてがある、そんなふうに動ける方ですよね。セリフも、強い言葉から小さな、繊細な言葉まで操れる。稽古場でも、こういう可能性があるのかと気づかせてくれる人です。

がむしゃらにやらなければ成立しない舞台

――シリーズ前作の『ヘンリー五世』の稽古場を見学されたそうですね。

はい、松坂（桃李）君も、溝端（淳平）君も知っているので、ちょっとプレッシャーをかけに行きました（笑）。二人とも非常に頑張っていましたね。蜷川さんの舞台シリーズを引き継ぐなんて大変なことだと思うんですよね。蜷川さんがやってきた仕事、そのレベルを要求されるような重圧もあるかもしれない。それでも素晴らしい舞台を立ち上げて、高い評価を獲得しています。今度の『ヘンリー八世』をどのように作り上げるのか、今はまだ予測がつかないだけにとても楽しみです。

――『シンベリン』で初めてシェイクスピア作品に相対した時は、どのような意識でシェイクスピア作品に臨まれていたのでしょうか。

韻を踏んだり、修飾が多かったり……、最初はそうした言い回しに慣れなくて、『シンベリン』ではとにかく必死になってやっていた、そんな記憶があります。『ジュリアス・シーザー』の時にはそれに少し慣れてきて、最初のころのような違和感は感じずにやれていたと思いますね。

――阿部さんにとって、蜷川作品を経験して得たものとは？

僕が一番嬉しかったのは、一貫した緊張感ですね。稽古場で演出される時ももちろん厳しいけれど、そうじゃない時も、その場にいるどの人間に対しても蜷川さんは演出の目で見ていて、その人が今どういう状況なのか全部分かっていらっしゃる様でした。だからずっと緊張が絶えないでいられた。稽古の初日から公演の最後まで、がむしゃらにやらなければ成立しない、そういう舞台を作ってくださいました。

――緊張感を保ったままのがむしゃらな日々が、また始まろうとしていますね。

稽古初日の本読みは、いつも最悪に緊張します（笑）。周りの皆の表現にものすごい迫力を感じて、……自分はこんなにセリフを立てて言えないな、とガッカリして帰るんですけど、もう次の日からはいい緊張感の中に自分も入ってるんですよ。いっさい手を抜かず、寝ずにやっていくような、まるで中毒みたいな感じですね（笑）。舞台の時はがむしゃらに、逃げ場も持たないようにしてやらなければ……と。それが舞台の醍醐味だし、その刺激が好きなんですよね。今回は相当難しい役だと思いますが、5年ぶりに挑戦するにふさわしい作品です。自分がヘンリー八世をどう演じられるのか、自分でも楽しみたいですし、ぜひ期待していただきたいと思います。

彩の国さいたま芸術劇場開館25周年記念

『蜷の綿 -Nina's Cotton-』リーディング公演 ＋ 関連企画『Tribute to 蜷川幸雄』レポート

今年10月15日、開館25周年を迎えた彩の国さいたま芸術劇場。
これを記念し同劇場では、2006年から2016年までの10年間、芸術監督として
偉大な足跡を残した蜷川幸雄氏にちなんだ企画「Tribute to 蜷川幸雄」が開催された。
リーディングから上映会まで、多角的に迫ったイベントのレポートを送る。

取材・文◉川添史子

『蜷の綿-Nina's Cotton-』リーディング公演
Photo◎宮川舞子

藤田貴大氏（マームとジプシー）が、蜷川幸雄氏の依頼を受けて書き下ろした『蜷の綿 -Nina's Cotton-』。2016年、蜷川氏の体調不良で公演延期となるなど幻の戯曲となっていたが、今回、長年蜷川氏の助手を務めた井上尊晶氏の演出により、リーディング公演として上演された。出演は、晩年の蜷川氏が育て上げた高齢者演劇集団さいたまゴールド・シアターと若手演劇集団さいたまネクスト・シアターだ。

埼玉県の川口市で生まれ育った少年時代、劇団青俳での俳優時代、現代人劇場と櫻社での演出家人生スタート、商業演劇へ歩み出す葛藤。藤田氏が生前の蜷川氏に幾度もインタビューを重ね、交換日記などを経て執筆した戯曲ということもあり、舞台上にはセリフの一つひとつから、語りかけるような文体で各時代の蜷川氏が浮かび上がる。「世界は、おれだ。おれは、世界だ」――随所に挟まれるモノローグは印象的。台詞の中に声が響き、大勢の出演者からその思いが多層的に発され、魂が立ち現れる。スクリーンに投影された絵は松羽目を思わせ、鼓の音が響き、複式夢幻能で言うシテ（主人公／幽霊）のような役割を果たす“壮年の蜷川”を演じた内田健司（生前の蜷川氏そっくりの黒づくめの服をまとい、赤いヒモの靴も故人を忍ばせ懐かしい）が客席から舞台に続く花道から登場。これは、いわば橋がかりだろう。さいたまネクスト・シアター『リチャード二世』などで観客を魅了した内田と竪山隼太との掛け合いは、やはり見応えがある。頼もしく成長したネクストのメンバーたち、声に人生がにじむゴールドが舞台に再び集う様子は、とても感動的だった。舞台奥の暗闇から登場する役者たち、耳馴染みのある曲など、蜷川作品を彷彿とさせる演出もあり、それもまた数々の名舞台を思い起こさせ、心を震わせた。

一人の演出家の人生は、戦後の演劇史も克明に映し出す。最後はかつて蜷川氏が演出した『カリギュラ』のセリフ「同じ魂と誇り高さをもっているふたりの男が、生きているうちに少なくとも一度、心の底から話をするのは、可能だと思うか――偏見や、個人の利害関係や、嘘といった、生のよりどころをぜんぶ脱ぎ捨て、おたがい丸裸になって」の文字がスクリーンに映し出され（公演2日目からの変更）、幕。観客はしばし、故人と会ったような気持ちを味わっただろう。各回終演後、蜷川氏ゆかりのゲストを招きアフタートークも開催された（10月13日『蜷の綿-Nina's Cotton-』作・藤田貴大氏＆演劇ジャーナリスト・徳永京子氏、14日俳優・石井愃一氏＆『蜷の綿-Nina's Cotton-』出演の竪山隼太、15日演劇評論家・内田洋一氏＆『蜷の綿-Nina's Cotton-』演出・井上尊晶氏）。

藤田構成・演出『まなざし』

関連企画「Tribute to 蜷川幸雄」のひとつとして、NINAGAWA STUDIO（大稽古場）で上演された『まなざし』は、藤田氏が再び“蜷川幸雄”に向き合い、構成・演出を手がけ、考察した作品。

アクティングエリアの天井からは、はしごやランプ、鳥かごといった物が吊り下げられ、「なにが見える？」と望遠鏡を覗く、黒い唇、黒づくめの服を着込んだ女2人（成田亜佑美と吉田聡子）がいる場所はアパートの一室のよう。眼鏡店、映画館、本屋……登場人物たちは場所を移動し日常的な描写が続くが、だんだんと誰かの不在について語られ始め、ここにいない誰かへの思い、静かな「喪失感」が伝わってくる。大事な人を亡くしたことのある観客にとって、この、生活の中、街の風景の中に急にふと思い出される“誰か”というのは、覚えのある感覚だろう。2人の会話には生前の蜷川氏の言葉も織り込まれ、最後、次々と蜷川作品が上演された劇場の写真がスクリーンに写される場面は、巨匠の演劇に対する“まなざし”を感じる瞬間だった。

「Tribute to 蜷川幸雄」ではそのほか、彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾『間違いの喜劇』、第23弾『じゃじゃ馬馴らし』、第28弾『ヴェニスの商人』を大きなスクリーンで鑑賞する『蜷川幸雄シアターin 彩の国さいたま芸術劇場』も開催（台風の影響で第29弾『ジュリアス・シーザー』のみ上映中止）。劇場のガレリアに蜷川氏の貴重な写真や資料を展示した「蜷川幸雄クロニクル」では、多くの蜷川ファンが足を止めて写真に見入っていた。

『まなざし』
Photo◎井上佐由紀

さいたまゴールド・シアター、新たな冒険
『BED』ロンドン公演レポート

この秋「世界ゴールド祭2018」で上演されたデービッド・スレイター演出『BED』がロンドンで再演され、さいたまゴールド・シアターのメンバーが渡英！　そのレポートを送る。

オールバニー劇場のエントランスにて。渡邊（右）と小渕（左）。

ロンドン市庁舎前でのパフォーマンス。芸術祭はロンドン市長が主催するカルチャー・インパクト・アワードを受けて開催された。

©David Slater / Entelechy Arts

演劇の都ロンドンに、さいたまゴールド・シアターが降り立った。

昨年の「世界ゴールド祭2018」でも話題となったデービッド・スレイター演出の『BED』がロンドンで再演されることになり、ゴールドにもぜひ参加して欲しいとの招きを受けたのだ。渡邊杏奴さんと小渕光世さんが代表として渡英。蜷川幸雄が切望していたゴールド・シアターのロンドン上陸が、彼を敬愛する英国の演出家と手塩にかけた俳優たちによって実現した。

『BED』は、街の中にお年寄りの横たわるベッドが置き去りにされるという演劇パフォーマンスだ。それぞれが作り上げた「孤独な高齢者」のキャラクターを高齢俳優が演じる本作では、通行人たちの多種多様なリアクションもまた、お年寄りが置かれた状況や人々の認識を映し出す。今回はスレイターが主宰するエンテレキー・アーツとその拠点であるオールバニー劇場による高齢者芸術祭「エイジ・アゲンスト・ザ・マシーン」の目玉として、英国人キャストとゴールドが共演。ロンドン各所にベッドが出現した。

9月16日、緊張の面持ちでヒースロー空港に現れたゴールドの2人。それでもタクシーの車窓から見る街並みに、徐々に声が弾んでくる。劇場があるロンドン南東部のルイシャム区は、かのグリニッジ天文台のお膝元だ。ゴールド・シアターの、地球をまたにかけた冒険が始まった。

翌々日から早速の稽古。1年振りのスレイターとの再会だったが、準備してきたアイデアを次々と演出家に提案していくのは、さすが百戦錬磨のゴールド。スレイターも新たな演出プランを打ち出し、2人を驚かせる。それぞれの人物像を練り上げ、さらに翌週にはエンテレキーの面々も加わって演技を見せ合うセッション。渡邊が演じる老女が差し出したすり鉢の中身（タバコ＋ポマード＋仁丹！）を、英国のキャストが「あなたの恋人の思い出の匂いね」と言い当てた。「老い」が内包する感情や経験は、国境を超えて通ずるのだ。

稽古期間中、ゴールドの2人はシンポジウムにも登壇。蜷川との活動を自らの言葉で語った彼女たちに、聴衆からは万雷の拍手。「残り少ない恥をすてて頑張ります」と宣言する小渕に、エンテレキーのベテラン俳優グウェンさんから熱いエールが送られた。

いよいよロンドン公演開幕

9月26日。ついに本番。朝から生憎の雨だったが、開演時には爽やかな青空が。舞台はロンドン市庁舎前の公園で、そびえ立つタワーブリッジを背後に背負った絵はがきのような立地だ。初日ともあって緊張がみなぎる。ゴールド2人とエンテレキーから2人、計4台のベッドが置かれた。

渡邊のベッドが現れた途端、学校の遠足とおぼしき子どもたちが取り囲む。「何してるの？」「どうしたの？」と物言わぬ老女を不思議そうに眺めている。警備員がいぶかしそうな視線を送ってくる。小渕が演じる老女は、飼い犬を探して徘徊する。尋ねてまわる小渕の顔を、皆、案ずるようにのぞき込んでいた。一方、話上手なエンテレキーのテリューザさんは、見知らぬ人にアイスクリームを買ってもらうことに成功。高齢者にもさまざまなストーリーがある。立ち止まって耳を傾けることから生まれる小さな幸福に心打たれた。

2日目はデイセンターで介護士や看護師を招いての公演。高齢者ケアの専門家たちとあって、徘徊する小渕を制止する人、ベッドから降りようとする渡邊をすかさず支える人。2人を気遣う優しさは疑う余地がない。だが「ケア」とは与えるだけのものなのか。行為の背景にはストーリーがある。じっと目をこらして物語を「聞く」ことが、ケアの本質ではないか。言語の壁がある2人が加わることで、そのことが鮮明に示されたとスレイターは強調する。

最終公演はオールバニー劇場のあるデプトフォード駅前商店街。カリブ系の移民が多く暮らす土地柄で、いかにも下町といった猥雑さがある。露店がひしめき買い物客で混雑する週末の通りに、ベッドが現れた。「救急車を待っているのか？」と男性。話を聞こうとする人の輪が、小渕のベッドを取り囲む。スマホを取り出す人。ほとんどの人は、ベッドをチラッと見て足早に通り過ぎる。面白がっているような顔、何も見なかったかのような顔、居心地の悪そうな顔、その表情はさまざま。遠くからずっと見ていた女性が渡邊のブランケットを拾い、無造作にかけ直していった。

芸術祭のパンフレット。ロックバンドになぞらえた名称に、エッジーな精神が込められている。

何が起こるかわからないストリートでのリアルタイムの反応に対して、動じることなく演じ上げた2人。蜷川との年月で育まれた地力と勇気に、ロンドンの観客からは惜しみない賞賛が送られた。

フェスティバルでは、クリストファー・グリーンが演出した『THE HOME（ザ・ホーム）』がもう一つの話題をさらった。観客は48時間泊まり込みで「老人ホーム」に入居。介護される生活を演劇的に再現した体験型の作品だ。不自由はないが自由のない生活や、矢継ぎ早に施されるケア。近い未来に直面するだろう「現実」を、日本の観客ならどのように感じ、どう受け止めるだろうか。アートの力を信じて高齢社会に切り込んでいく英国らしい果敢で挑戦的な芸術祭に、演劇の国の懐の深さを感じた。

（上）初日はオフィス街にほど近い立地もあり、ビジネスマンの姿も。
（下）シティの象徴であるギルドホールで行われたシンポジウムには、英国各地から高齢者芸術に関わる人々が集まった。

デプトフォードでの最終日。多種多様な人々が行き交う通りのベッドに、多くの人が足を止めた。

本番直前、スレイターからの言葉に集中する4人。

エンテレキーの出演者たちと記念の集合写真。

森 優貴
Interview

森 優貴
Yuki Mori

演出家・振付家・ダンサー。ハンブルク・バレエ・スクールへ留学後、1998年から2001年ニュルンベルグバレエ団、2001年から2012年トス・タンツカンパニーに在籍、芸術監督であったシュテファン・トスの数多くの新作で主役を務める他、キリアン、フォーサイス、エックら著名振付家による作品を踊る。2005年ハノーファー国際振付コンクールにて観客賞と批評家賞を同時受賞。2012年9月ドイツ・レーゲンスブルク歌劇場ダンスカンパニーの芸術監督に就任。日本人初の欧州での芸術監督となる。就任後、次々に新作を発表。ジャンルを超えた作品を手がけ、ドイツ国内外の芸術機関・メディアから「今最も注目するべきダンスカンパニー」として評価を得る。2019年8月から日本を拠点としてヨーロッパ以外でも活動を開始。平成19年度文化庁芸術祭新人賞、平成24年度兵庫県芸術奨励賞、平成29年度神戸市文化奨励賞など受賞歴多数。

新たなスタート地点に立ったNoism新作

Noism1 + Noism0
森 優貴／金森 穣 Double Bill

2004年、新潟市の文化施設「りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館」によって設立され、日本唯一の劇場専属舞踊団としても知られるNoism。今年9月、これまでの活動を市が検証し、第6期（2019年9月から2022年8月）の活動継続が決定。りゅーとぴあを拠点にさらなる活動を展開することになった。新体制スタートは、森優貴と金森穣による新作の二本立てを上演。ドイツで舞踊団を率いていた森による、帰国後初創作について聞く。

取材・文◉高橋森彦（舞踊評論家） Photo◉遠藤 龍

—— Noismから新作の依頼を受けた時の気持ちはいかがでしたか？

尊敬する先輩として追いかけてきた金森穣さん（Noism芸術監督）からオファーをいただき、光栄に思うのと同時に一種の責任も感じました。穣さんが15年間日本の劇場文化のために闘い築きあげ、16年目の新たなスタートの一歩を踏み出した劇場専属舞踊団から招かれたことはプレッシャーにもなっているのですが、大きな喜びでもありました。

—— Noismをどのようなカンパニーだと思われていましたか？

これまでダイジェスト映像以外で彼らの活動を拝見すること自体が根本的に不可能でしたが、劇場文化の土壌がない日本で築きあげてきた底力と彼らが信じる表現に対しての命の賭け方を映像からでも充分に感じることができました。劇場文化が成立しているドイツでの私の芸術監督としての経験とは異なるからこそ、Noismそれに金森穣と自分自身を比較して意識し、自分を否定したりする時もありました。

—— 実際に新潟でNoismに接した印象を教えてください。

ドイツのレーゲンスブルクでカンパニーを率いていた時とほとんど変わらない環境で創作することができています。地方だからこそモノが創れる。暮らしの面でも、一人の振付家に率いられ訓練されている集団との創作という面でも、創ることに集中できる環境です。レーゲンスブルクもバイエルン州の地方都市で創作に集中できていましたし、ダンサーを抱え育成しながら日々創作する環境でした。

—— 新作『Farben（ファルベン）』の表題はドイツ語で「色彩」という意味です。発想はどこからですか？

最初に興味を持ったのが感覚質（クオリア）でした。私たちは日々感覚質を表現しています。自分の中で当たり前になっている表現の仕方をもう一度再認識したいと考えました。そこから「メアリーの部屋」*という哲学の思考実験に関心を持ちましたが、新潟に来てからはダンサーたち一人ひとりの色＝個性・アイデンティティを宝石箱のように提示したいと思うようになりました。その中で起こるイメージと感覚質の抽出、演者の中での覚醒、そして観客との共有に興味があります。私の最近の作品傾向として、「死」と「生」の両方に共通して感じる「儚さ」、それらを「旅」という命のサイクルとして主題にすることが多くなってきています。日本に帰国した私にとってもここから新たな「旅」が始まり、新作でもまた一つ「旅」が生まれます。

新しいNoismを見せる新作

—— Noismのダンサーたちとのクリエーションの手応えはいかがですか？

私が言葉で表現し投げかけるイメージをキャッチしようとする集中力が物凄いですね。それらを理解することも感覚質につながるのですが、自分の魂を賭ける意識が強く、こちらが血を吸われるような感じです。森優貴の舞踊言語を身体に取り入れることに必死ですが、そこには助けとなるイメージやメタファーの理解も必要で、個々が消化しようと自発的に取り組んでくれます。彼ら一人ひとりの色彩が刺激的で新鮮なので大いに生かしていきたいですね。

—— 創作にあたって大事にしていることは何でしょうか？

「感覚」「直感」でしょうか。穣さんにも「感覚的だね」と言われます。私の作品では音楽が最重要要素で、自分が目を閉じて音楽を聴いた瞬間に目に浮かぶものが正しいと思っています。でも今回はどこまで感覚で突き通せるのか、通して良いものなのかを問い続けています。スタジオに入る前に、音楽から作り出した構成や動きの方向性は準備しますが、ダンサーの身体を見てその場で受ける直感を最優先にしたい。映画で言えば1カットで回しっぱなしなくらいの思い切りで。でも、それは訓練され感覚も磨かれている集団だからこそ可能なのです。

—— 公演に向けて意気込みをお聞かせください。

私が日本に拠点を移し、Noismの新潟市での活動継続が決定されたタイミングで彼らと創ることができるのは喜びでしかありません。そして同じ公立劇場での芸術監督経験がある唯一の存在として認められ、「同志」として迎えていただいたことに感謝と共に責任も感じます。自画自賛になりますが金森穣と森優貴は日本の舞踊界最強の2トップだというくらいの気持ちで新潟に来ました。そうじゃないと弱気になっていたかもしれません。穣さんは「優貴の好きなようにやればいい」と言ってくれます。「普段のNoismとは違う色が見えた」というのは私が絶対に提示すべきことで、それをダンサーたちが認識して次へのステップにしてくれたら何よりです。新しいNoismが見えるのではないかと思います。

＊オーストラリアの哲学者、フランク・ジャクソンが「随伴現象的クオリア」"Epiphenomenal Qualia"（1982）、さらに「メアリーが知らなかったこと」"What Mary Didn't Know"（1986）という論文の中で提示した。

Noism Company Niigata
ノイズム・カンパニー・ニイガタ

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する、日本初の公共劇場専属舞踊団。芸術監督は金森穣。プロフェッショナル選抜メンバーによるNoism0、プロフェッショナルカンパニー Noism1、研修生カンパニー Noism2の3つの集団があり、2004年の設立以来、国内・世界各地からオーディションで選ばれた舞踊家が新潟に移住し、年間を通して活動している。Noism1 はりゅーとぴあで創った作品を国内外で上演し、新潟から世界に向けてグローバルに活動。Noism2はプロをめざす若手舞踊家が所属し、劇場での公演の他に、新潟市内で開催されるイベントや学校への出前公演等、地域に根ざした活動を続けている。Noism0は、舞踊に限らず、齢と経験を積み重ねた芸術家だからこそ生み出せる表現を、新潟から世界に向けて発信していく。Noismの由来は、「no-ism＝無主義」。特定の主義を持たず、歴史上蓄積されてきた様々な身体知を用いて、あらゆるismを再検証することで、今この時代に有用な新しい形に置き換え、現代人としての身体表現を後世に伝えていこうとしている。

チケット販売中

Noism1+Noism0
森 優貴／金森 穣 Double Bill

2020年1.17（金）19:00、18（土）17:00、19（日）15:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
［演目］『Farben』演出振付:森 優貴
『シネマトダンス―3つの小品』演出振付:金森 穣
［出演］Noism1、Noism0
チケット（税込）一般 5,500円／U-25*（枚数制限あり）3,500円
［主催］公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
［共催］公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

＊U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン

『Venezuela ーベネズエラ』

偉大な振付家、巨大な才能に生で触れる

舞台を駆け巡るダンサーたちの強烈なエネルギー。驚異の身体。
3月、多くの観客を魅了し続けるバットシェバ舞踊団が、
芸術監督としてナハリンが最後に手掛けた作品
『Venezuela ーベネズエラ』を携え彩の国さいたま芸術劇場に登場する。
長年、バットシェバ舞踊団の作品を観つづける
乗越たかお氏にその魅力を紹介していただく。

文◉乗越たかお（作家・ヤサぐれ舞踊評論家） Norikoshi Takao　Photo◉Ascaf Avraham

最も偉大な振付家の一人、という修辞も、決して誇張ではない。約30年間にわたりイスラエルのバットシェバ舞踊団の芸術監督として活躍したオハッド・ナハリンは、ダンスにおける未知の扉を大きく開いた。まさに改革者の一人である。彼が作り上げた身体メソッド「ガガ（Gaga）」を通して、見たこともない動きを次々に生み出し、深い洞察とユーモアと、ちょっとしたイタズラ心に満ちた作品を次々に送り出してきた。来日も多く、そのたびに「ダンスと身体には、まだまだこんなことができるのか！」と人々の心を揺さぶってきたのである。

バットシェバ舞踊団を世界に冠たるカンパニーに押し上げたナハリンだが、2018年のシーズン終了をもって芸術監督を引退し、以後はハウス・コレオグラファーとして活躍している。これまで以上に創作に専念し、さらなる作品への期待は高まる一方だ。そんなナハリンが、芸術監督として最後に作ったのが本作なのである。

ベネズエラ――明らかに国の名前であり、初演された2017年は政治的にはすでにドロドロの様相を呈していた。しかしナハリンは作品の解釈がひとつに絞られることがないよう、作品に関するコメントはユーモアとすっとぼけでかわすのが常道だ。本作も「地球儀を回して、適当に指を置いてたまたま止まった場所」と答えるのみである（テルアビブのフェスでの質疑応答では「たまたま頭に浮かんだ言葉」だと答えていた）。

たしかに舞台上にはセットもなく、全員が黒い衣装で（デザイン：中村恵理）特定の場所や時間を示すものはない。幕が開くと流れているのは荘厳なグレゴリオ聖歌である。ゆっくりとひと組の男女が手をあげて身体をくねらせてポーズをとる。そしてカップルになって激しくラテンの社交ダンスを踊り出す。どこか狂騒的だが、聖歌は相変わらず流れ、チャント（詠唱）のように響き、かすかにノイズが混入されてくる。

本作にはひとつの特徴がある。独自のやり方で「繰り返し」が効果的に使われるのだ。

「動き」と「音楽」は一見分かちがたいもののように思えるが、同じ動きを違う曲で踊ることになり、両者の関係性の乖離が示される。この「同じ動きが、まったく違った意味合いを帯びて見えてくる」というのは、以前来日公演した傑作『SADEH21 ーサデ21』でも示されたものだ。同作では、世界は美しく、同時に悲劇も満ちていることが先鋭的に示された。今回は、そこまでダイレクトなものはない。単純に踊るシーンでいえば、今作の方が多く、より動きに溢れているといえるだろう。しかし単なる身体の賛美でもなく、その背後には、つねに絶対的な静寂が陰々と鳴っているようなのだ。まるで大きな厄災の後のようでもある。一方向に流れる音楽は時間と似ているが、異なる音楽で踊る身体は、違う未来を選択する可能性にもみえてくるのだ。

純粋な驚きが満ち満ちたダンス

もちろんダンサー達の動きは、目を見張るものだ。ストリートダンスの人々のなかには「コンテンポラリー・ダンスはあまり踊らない」と思っている人も多いが、ビックリするのでぜひ観てほしい。特に若い人は「ステップを覚えるのがダンス」と思いがちだが、その向こうにある、「なんでこんな発想の動きが出てくるの!?」という純粋な驚きが満ち満ちているのである。今作では各ダンサーのソロが十分に味わえるシークエンスもあるし、群舞でガッツリとシビれるシーンもある。

使用される曲はラップから中東の音楽まで様々だ。作品の所々に「馬」のイメージを見つけられるかもしれない。踊りながらギャロップのような足音をたてるシーンもあり、四つん這いになった相手にまたがったりもする（馬は戦争にも、平和な農耕にも使われる存在であり、「ベネズエラ馬脳炎」といえば三大馬脳炎のひとつだが、まあこれは考えすぎだろう）。

独特の動きを生み出すナハリンの身体メソッド「ガガ」は、いまや世界中の大学やダンスの教育施設、また誇り高いクラシック・バレエ団のレッスンにも取り入れられている。これは外から振り付けるのではなく、身体の中から動きを湧き出させるものだ。

オレの言っていることが信じられないという人は、ナハリンの半生を辿りつつ、大量の貴重な過去作品の映像が山ほど入ったお得なドキュメンタリー映画『ミスター・ガガ 心と身体を解き放つダンス』があるので予習してみるのもいいだろう。

そして『Venezuela ーベネズエラ』。ナハリンという巨大な才能に生で触れられる、貴重なチャンスを逃すな！

Photo◎Ilya Melnikov

オハッド・ナハリン（振付家）
Ohad Naharin

1952年イスラエル生まれ。20代から舞踊を始め、ダンサーとしてバットシェバ舞踊団で活躍の後、渡米しマーサ・グラハム舞踊団に入団。その後、ジュリアード音楽院で学ぶ。1980年に振付家としてデビュー。1990年バットシェバ舞踊団の芸術監督に就任し、以来『キール』（1990年）、『マブール（洪水）』（1992年）、『アナフェイズ（細胞分裂）』（1993年）などの話題作を含めた30以上もの作品を発表。また、独自の動きのテクニック「Gaga（ガガ）」を考案、ダンサーたちは日常的なトレーニングを通じてムーヴメントの新たな可能性を探し、ダイナミックな感性を知覚している。彼の作品はネザーランド・ダンス・シアター、リヨン・オペラ座バレエ団、パリ・オペラ座バレエ団など、世界中の著名なダンスカンパニーやバレエ団で踊られており、世界で最も注目される振付家の一人。2018年にバットシェバ舞踊団の芸術監督を退任するが、現在もハウス・コレオグラファーとして精力的に作品を創り続けている。

チケット発売日　一般 12.7（土）　メンバーズ販売中

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『Venezuela ーベネズエラ』

2020年3.13（金）19:30、14（土）・15（日）15:00　彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
［演出・振付］オハッド・ナハリン　［出演］バットシェバ舞踊団　［上演時間］約80分（途中休憩なし）
チケット（税込）一般 前売S席7,000円　A席4,000円
U-25* 前売S席3,500円　A席2,000円／メンバーズ 前売S席6,300円　A席3,600円

※演出の都合により、開演時間に遅れたり途中退場されますと、客席へのご入場ができません。予めご了承ください。
※当日券は各席種とも＋500円
※A席（サイドバルコニー・2階席の一部）は舞台の一部が見えない場合がございます。
＊U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※82号発表の情報より13日（金）の開演時間が変更となりました。

【関連企画】
《Gagaワークショップ》Gagaピープル 2020年3月14日（土）17:45〜18:45
※お申込み方法やGagaインテンシブなど詳細は、財団HP・SNS・チラシ等でお知らせいたします。

Beatrice Rana

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.38

ベアトリーチェ・ラナ

知性、情緒、技巧、すべてが揃ったイタリアの新星

新進気鋭ピアニストが意欲的なプログラムを披露する「ピアノ・エトワール・シリーズ」。
2019年度最後に登場するのは、イタリア出身のベアトリーチェ・ラナ。
モントリオール国際音楽コンクール優勝、
ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール銀賞で注目を集め、
ただいま大躍進中のラナが披露するのは、彼女が心から愛する作曲家たちの作品。
今後ますます活躍すること間違いなしのラナの“今”を聴き逃すな！

文◉後藤菜穂子（音楽ライター）　Photo◉Nicolas Bets

トリフォノフ、ユジャ・ワンと並ぶ今注目の若手ピアニストのひとり

ベアトリーチェ・ラナ、とても聡明なピアニストである。

初めて会ったのは2年半ほど前、ちょうど《ゴルトベルク変奏曲》のディスクが出た頃だっただろうか。まだ20代に入ったばかりなのに、物事を冷静に見ていて、自らのピアニストとしてのキャリアについても成熟した考えを持っている点が印象的だった。「ピアニスト以外の道は考えたことがない」と言い切れる迷いのなさに、芯の強さを感じた。

今年1月には英音楽雑誌の『グラモフォン』誌に、トリフォノフやユジャ・ワンらと並んで、ピアノ界の新・黄金時代を代表する5人のピアニストに選ばれたが、並みいる若い世代のピアニストの中でもラナは特に知性と情緒と技巧のバランスが際立っているように思う。

初来日は2015年のラ・フォル・ジュルネ。続いて2017年にはトッパンホールでのソロ・リサイタルでバッハの《ゴルトベルク変奏曲》、そしてファビオ・ルイジ指揮NHK交響楽団とベートーヴェンのピアノ協奏曲第1番を演奏した。3度目の今回、彩の国さいたま芸術劇場の「ピアノ・エトワール・シリーズ」に登場する。

バッハに惹かれシューマンを愛する

南イタリア、「長靴のかかと」と形容されるプーリア州レッチェに生まれ育つ。父はオペラのコレペティトール（伴奏ピアニスト）、母もピアノ教師という音楽一家で、6ヶ月の頃から母親の膝の上でピアノを弾いて遊んでいたという。

4歳の時、地元に開校したばかりのヤマハの音楽教室に通い始め、その後は地元の音楽院でピアニストのベネデット・ルーポに師事、対位法や作曲も学んだ。一方、数学が得意だったので高校は理系を選び、成績もよく、先生たちには学問の道を進められたそうだが、「たとえ医者になれたとしても、音楽家ほどは幸せにはなれなかったでしょう」とにっこり笑う。

18歳でモントリオール、20歳でクライバーンと名だたる国際ピアノ・コンクールで次々に成功を収め、デビューを果たすが、ワーナーからの初のソロ・アルバムに《ゴルトベルク変奏曲》を選んだことで一躍注目を浴びた。筆者は昨今の国際コンクールで多くの才能豊かな若手ピアニストを聴いてきたが、それでも彼女のような理知的かつ様式感に富んだバッハが弾ける奏者はめったにいない。

彼女自身はとにかく子どもの頃からずっとバッハが大好きで――なんと8歳の時にオール・バッハ・プログラムのリサイタルを開いたそうだ――「バッハを弾いている時はとても心地よいんです」とさらりと言う。数学が得意なので、バッハの音楽の知的な部分に惹かれるのかと思いきや、むしろそのスピリチュアルな面、その人間性に惹かれるのだという。「バッハの音楽には、人間性と神々しいほどの完成度が同居しています」

もう一人、ラナがこよなく愛する作曲家がローベルト・シューマン。クライバーン・コンクールでは、室内楽のラウンドでのピアノ五重奏曲、本選リサイタルでの《交響的練習曲》と、その成功を形作った重要なレパートリーだ。またピアノ協奏曲も得意としている。今回のリサイタルでは、25歳のシューマン――今のラナとほぼ同じ年齢！――が作曲した情熱のほとばしる野心的なピアノ・ソナタ第3番を取り上げるが、憧れとパッションにあふれる演奏が期待できそうだ。

華麗なテクニックと切れ味鋭いリズム感に期待

リサイタル後半のテーマは「舞踊」だろうか。スペインの作曲家アルベニスの組曲《イベリア》はラナの最新のレパートリーだが、なかでも第3集は難曲ぞろいとされる。第2曲〈エル・ポーロ〉（アンダルシア地方の舞曲）に代表されるように南スペインの情緒とリズムが魅惑的だ。

そしてフィナーレを飾るのはストラヴィンスキーの《「ペトルーシュカ」からの3楽章》。バレエ・リュスのために作曲されたバレエ音楽から、のちに作曲家自身がピアノ用に編曲したものだ。

本作品は、この秋リリースされたばかりの最新のソロ・アルバムにも収められている。20世紀初頭にパリで作曲された作品を組み合わせたこのディスクには、そのほかストラヴィンスキーの《火の鳥》（アゴスティ編曲）、ラヴェルの《鏡》と《ラ・ヴァルス》という色彩に満ちた作品が並ぶ。

「私はかねてより20世紀初頭のピアノ音楽に強く惹き付けられてきました。劇的な変革の時代であり、それぞれの作曲家がそうした変化を自分なりの音の語法で表現してきました。これらの曲はこうした時代を映し出しているのです」と彼女は最近の『グラモフォン』誌に語っている。

《「ペトルーシュカ」からの3楽章》は、もともと大編成のオーケストラ曲をピアノ1台で弾くわけなので、当然難易度の高い作品であるが、ラナは華麗なテクニックと切れ味の鋭いリズム感でスケールの大きな演奏を聴かせ、ストラヴィンスキーのバレエの世界をヴィヴィッドな色彩で描いてくれることだろう。

ベアトリーチェ・ラナ（ピアノ）
Beatrice Rana

2011年18歳でモントリオール国際音楽コンクール優勝、また2013年ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール銀賞（第2位）および聴衆賞受賞により世界的に注目される。ムツィオ・クレメンティ、サン・マリノ、バング&オルフセンなど数多くの国際コンクールで優勝。2018/2019そして2019/2020シーズンは、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、シカゴ響、バイエルン放送響、パリ管弦楽団、ロンドン・フィル、フィラデルフィア管、チューリヒ歌劇場管弦楽団等と、また、ファビオ・ルイジ、ヤニック・ネゼ＝セガン、ケント・ナガノなど国際的に活躍している指揮者と共演。CDでも高い評価を得ており、2017年には『バッハ：ゴルトベルク変奏曲』がリリースされ、この録音に対して、2018年6月Classic BRIT Awards 2018にノミネートされた。現在、世界中から最も注目を浴びている若きピアニストである。

チケット販売中

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.38
ベアトリーチェ・ラナ ピアノ・リサイタル

2020.3.8（日）15:00　彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

［曲目］J. S. バッハ：イタリア協奏曲 ヘ長調 BWV 971
シューマン：ピアノ・ソナタ第3番 ヘ短調 作品14（1836年初稿版）
アルベニス：組曲《イベリア》第3集
ストラヴィンスキー：「ペトルーシュカ」からの3楽章

チケット（税込）一般 正面席3,500円 メンバーズ 正面席3,200円
バルコニー席2,500円／ U-25*（バルコニー席対象）1,000円

＊U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※78号において公演日の記載に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

サー・アンドラーシュ・シフの「優しさ」と「厳しさ」

――合わせた手が語りかける音楽

2017年に初めて彩の国さいたま芸術劇場で演奏したサー・アンドラーシュ・シフが再びやってくる！
今回のプログラムは、シューマン、ブラームス、モーツァルトを経てベートーヴェンのソナタへたどり着くもの。
プログラムも演奏空間も決して妥協することなく
理想の音楽を追求する、現代最高の鍵盤楽器奏者シフの魅力とは。

文◉長木誠司（音楽評論家・東京大学教授）

Photo◎Nadia F.Romanini

サー・アンドラーシュ・シフ（ピアノ）
Sir András Schiff

現代最高の鍵盤奏者のひとり。1953年ブダペスト生。活動の大半はJ. S. バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、バルトークらの鍵盤作品によるリサイタルや全曲演奏会である。ヨーロッパ室内管やフィルハーモニア管の弾き振りも多く、1999年には自身の室内楽オーケストラ、カペラ・アンドレア・バルカを創設。録音も膨大で、ECMレーベルからの最新盤は、2015年にリリースされたシューベルトの後期ピアノ作品集（フォルテピアノで演奏）。様々な勲章など受賞も多く、2014年にはナイト爵位を授与された。

2017年3月彩の国さいたま芸術劇場にて　Photo◎横田敦史

両手を合わせるシフの姿

アンドラーシュ・シフのいちばん印象的な仕草は、両手を静かに胸の前で合わせることだ。きっと演奏後のカーテンコールで誰もが眼にすることになるだろう。この仕草は見るからに優しいシフの人柄を表しているかのようだし、実際そうなのだろうと思う。またそれは、一途に音楽に身を捧げているひとの姿のようにも見える。作曲家に、作曲家の創る作品に、そして音楽に。

ステージ上でだけではない。シフは日頃から絶えずこの仕草をする。あたかも生活すべてを音楽に捧げているかのように。ベルリンの州立歌劇場で、バレンボイムが指揮をした演奏会があった。拍手しながら、気がつくとすぐ隣にシフの姿があった。聴きに来ていたのだ、大事な演奏会だったから。そして静かに拍手をしていた。けっして強くも速くもないが、一拍ずつしっかりと確かめるような叩き方。その様は、まさにステージ上で彼が両手を合わせる姿そのものだった。急に親しみが湧いて、声をかけそうになった。でもシフにとってはいつものことなのだろうし、そこに親しみを込められても困るだろう。

客席の気持ちよい雰囲気　最高の音楽のために

シフのこの優しさは、その実しかし厳しさの裏側でもある。優しさを込められるのは、常に厳しく臨んでいるからだ、音楽に。そういう場面もけっこう見てきた。例えば、ベルリンのフィルハーモニー室内楽ホールでベートーヴェンのソナタを数曲演奏したとき。音楽祭気分に溢れた客席は、最初からどこか落ち着きがなかった。演奏後の拍手が早すぎて、1曲目の終わりからシフは見るからにピリピリしている。2曲目が終わったときだったか、会場に向かってなにか叫び（残響の多い会場で内容は正確に聴き取れなかったが、「もっと集中して」というところだけは分かった）、舞台裏に引っ込んでしばらく出てこなかった。鎮める時間が必要だったのだろう、客席にも、自分にも。

あるいは同じ会場でハインツ・ホリガーの1時間近くかかる大作を初演していたときのこと。やはり集中力の欠けた聴衆を前に、シフは途中で演奏をやめて引っ込んでしまった。ホリガー本人も聴いていたのにである。初めての作品に完璧な姿を与えたい、そんな強い信念が感じられた。

でも、聴衆の反応がシフの演奏の出来を決めると言ったら言いすぎだろうし、そもそもちょっと違っている。そんなことおかまいなく、彼の演奏は常に高い水準で始まって終わるからだ。ただ、聴かれる空間の雰囲気がいいとき、彼にとってこの上ない聴衆がそこにいて、ホールの精度がよくて、お互いに気持ちのよい演奏会ができそうなとき、シフの演奏は天から降りてきたようなものになる。神々しいほどなのだ。そのとき、あの優しく佇むシフがそこにいて、それこそイエスか菩薩のように衆生のわれわれを救ってくれるような気がしてくる。そんな感覚を演奏後に味わえたなら、それはわれわれにとって何よりの幸せであるのは当たり前として、シフ自身にとっても最高の演奏になっていたはずだ。

こだわりのピアノの配置　そこから生まれるシフの音楽

もちろん、シフ自身も演奏に可能な限りの理想を求めて努力というか、試行錯誤をしている。例えばピアノの配置だけをとってもそうだ。客席に対してちょっと斜めになるようにピアノをステージ上に配置させる。それが彼にとって、そして聴き手にとっていちばん有効な置き方だからである。シフの姿を少し斜め後ろから見ることになる聴衆。そこから、ひとつひとつの音が粒立って、くっきりとした声部が浮き上がり、互いに結び合いながら重厚にして透明な音楽が立ち上がる。モーツァルトでは天使のように音が舞い、ベートーヴェンではスマートに音楽の主張が語られ、バッハでは柔構造がしなやかに現れる。シューベルトの、あの憂鬱を美しく哀しく湛え、でもどこか救いを与えてくれるような複雑な内面を、過剰なものになんとか形を与えようとするシューマンの屈折した語り口を、どうしてああも自然に伝えられるのだろう。

最近、シフは本格的に指揮をし始めた。正直あんまりかっこよくないし、振られる棒の表現力から音楽が見えてこない。それでもオーケストラから出てくる音は、いつものシフのピアノの表情だ。棒振りよりも、指揮台に立っていることがこのひとにとっては音楽を体現することなのだ。全身が音楽、それを胸の前で合わせた両手が自ずと語りかけてくる。

チケット販売中

サー・アンドラーシュ・シフ ピアノ・リサイタル

2020.3.14（土）15:00　彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

［曲目］シューマン：精霊の主題による変奏曲 WoO 24
ブラームス：3つの間奏曲 作品117
モーツァルト：ロンド イ短調 KV 511
ブラームス：6つのピアノ小品 作品118
J. S. バッハ：《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より〈プレリュードとフーガ第24番〉ロ短調 BWV 869
ブラームス：4つのピアノ小品 作品119
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第26番 変ホ長調 作品81a「告別」

チケット（税込）一般 正面席11,000円 メンバーズ 正面席10,000円
※バルコニー席・U-25は予定枚数終了。

2019年7月Vol.2公演より　Photo◎横田敦史

大塚直哉レクチャー・コンサート

オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”
【Vol.3】“平均律 wohltemperiert”の謎

大塚直哉 Interview

どの楽器のための作品？ 曲名の意味は？ バッハの名曲の“謎”に迫る

彩の国さいたま芸術劇場オルガン事業アドヴァイザー大塚直哉が、
ポジティフ・オルガンの魅力を紹介するレクチャー・コンサート。
バッハの《平均律クラヴィーア曲集第1巻》を
ポジティフ・オルガンとチェンバロで聴き比べるシリーズ、
第3回のテーマは「“平均律 wohltemperiert”の謎」。
第1巻の最後の7曲を取り上げ、曲集に隠された“謎”を解き明かす！

大塚直哉（おおつか・なおや）
ポジティフ・オルガン、チェンバロ、お話

東京藝術大学大学院、アムステルダム音楽院修了。バッハ・コレギウム・ジャパンなどのアンサンブルにおける通奏低音奏者として、またチェンバロ、オルガン、クラヴィコードのソリストとして活躍。また、こうした古い時代の鍵盤楽器に初めて触れる人のためのワークショップを全国各地で行なうなど、後進の育成とバロック音楽の普及にも力を注いでいる。現在、東京藝術大学教授、国立音楽大学非常勤講師。 NHK-FM「古楽の楽しみ」案内役として出演中。公式HP http://utremi.na.coocan.jp/

チケット販売中

大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”
Vol.3 “平均律 wohltemperiert”の謎

2020.2.2（日）14:00　彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
［出演］大塚直哉（ポジティフ・オルガン、チェンバロ、お話）
［曲目］J. S. バッハ：《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より 第18番から第24番
チケット（税込）全席指定 2,000円

2020年度はいよいよ“平均律第2巻”の世界へ！
2020年度大塚直哉レクチャー・コンサート2公演セット券・Vol.4 1回券 ☞ 詳細はP.22

オルガンとチェンバロ　同じ曲でも全く違う世界に

《平均律クラヴィーア曲集》はチェンバロのための曲と一般的に言われていますが、本当にチェンバロだけが想定されているのか、オルガンやほかの鍵盤楽器も想定されているのか、実は分からない曲集です。そこで、ポジティフ・オルガンとチェンバロ、2つの異なる鍵盤楽器で演奏し、いろいろな音のイメージを楽しもうというのが本シリーズです。オルガンは音が減衰しませんが、チェンバロは音が減衰していくので、同じ曲を弾いても全く違う世界ができるのですよ。それが実に面白いところです。

オルガンとチェンバロで聴き比べるために、どの曲も2回ずつ弾くことになるので、特に昨年の第1回はとても長い公演になってしまいました。みなさんうんざりされたかな……と心配だったのですが、とてもお楽しみくださったようで、嬉しく思っています。各曲2回ずつの演奏を聴いても面白いと思ってくださるのは、やっぱりバッハのすごさ、《平均律クラヴィーア曲集》のすごさだと思います。この曲集はピアノで演奏される方も多く、また、謎の多い曲集ということもあってか、作品に対する関心、「もっと知りたい」「もっと違う味わい方をしたい」というお客様の強い思いを毎回感じています。

第1巻の最後7曲を聴き比べ　楽器の中も解き明かす

第1回は曲集について全般的な話をし、第2回では「フーガ」に注目しました。第3回は、曲集の「謎」についてお話しします。どんな楽器のために書かれた作品なのかという謎、また、作品の構造の中にある不思議な点について取り上げます。そもそも「平均律」という題は直訳ではありません。原語では「wohltemperiert」といいますが、これをどう解釈したらいいのか、さまざまな考え方をお話ししながら、演奏を聴いていただきます。また、チェンバロとオルガンの違いを楽しんでいただくシリーズでもあるので、今回はビデオカメラを使って2つの楽器の中をスクリーンに映し、発音する仕組みなどをお見せする予定です。チェンバロは、木の箱に金属弦が張られた楽器で、鍵盤を押すと爪が金属弦をはじいて音が鳴るのですが、その様子もご覧いただきます。

取り上げる曲は第1巻の最後の7曲、第18番から第24番までです。これら第1巻の最後の方の作品は、ちょっと普通じゃない曲なんですよ。その「謎」をお楽しみいただけるよう、そして第1巻の締めくくりとして、いいコンサートになったら、と思っています。

MUSIC

アンサンブル・ウィーン=ベルリン
9.28（土） 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

スーパー木管アンサンブル2年ぶりの彩の国公演は、モーツァルトとフランスの作品で木管五重奏の妙を披露した。《コジ・ファン・トゥッテ》によるハルモニームジークは、主に旋律を担うフルートのシュッツ、オーボエのケリーの気品に満ちた歌、クラリネットのオッテンザマーの温かな分散和音、ファゴットのガラー、ホルンのドールの豊かな低音の支えが見事に絡み合い、モーツァルトのオペラの世界が繰り広げられた。タファネルの《木管五重奏曲》は5人が主役の作品で、雄弁に語り合う5つの楽器の掛け合いに心躍る。イベールの作品は色彩的な響きが楽しく、モーツァルトの五重奏曲《ナハトムジーク》は崇高な響きと幻想的な美しさに魅せられた。

Photo◎加藤英弘

MUSIC

佐藤俊介とオランダ・バッハ協会管弦楽団
10.5（土） 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

昨年「オランダ・バッハ協会」の音楽監督に就任した佐藤俊介の凱旋公演。佐藤はメンバーたちを終始積極的にリードし、生気と滋味を併せ持つ演奏を聴かせた。前半のJ. S. バッハ《管弦楽組曲第1番》は豊潤な調べ、ピゼンデル《ダンスの性格の模倣》は絶妙なリズム、バッハ《ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲》は呼吸の合ったソロで魅了。後半のバッハ《ヴァイオリン協奏曲第2番》は佐藤のしなやかな躍動、珍しいビュファルダン《5声の協奏曲》の第2楽章は質朴でまろやかな味わい、最後のバッハ《ブランデンブルク協奏曲第5番》は3楽器の鮮やかなソロが、興趣に富んだ時間を演出。緻密にして愉悦感溢れる公演となった。

Photo◎加藤英弘

MUSIC

NHK交響楽団
下野竜也（指揮） 小山実稚恵（ピアノ）
11.2（土） 埼玉会館 大ホール

満席のお客様を前に、下野竜也のタクトのもとドラマティックな3曲が演奏されたNHK交響楽団埼玉公演。ヴェルディの歌劇《運命の力》序曲はシンフォニックな表現を重視しながら最後は劇的表現が際立ち、オペラの幕がまさに開くような心沸き立つ演奏だった。ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番は、ロマンティックなだけではない、作品の持つモダンさと構成感をも聴かせる小山実稚恵の堂々たる演奏を堪能。ムソルグスキー《展覧会の絵》は、ユニークな音の動きと音色によって絵に描かれた光景がありありと目に浮かぶ演奏で、各楽器のソロも存分に聴かせた。アンコールはエルガー《エニグマ変奏曲》から〈ニムロッド〉。心熱くなる演奏で締めくくった。

Photo◎加藤英弘

EVENT CALENDAR イベントカレンダー

2019.12.1 >>> 2020.2.15

お子様から楽しんでいただける公演です。
光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ ＝彩の国さいたま芸術劇場　埼玉会館 ＝埼玉会館

PLAY

- 12月21 (土)・22 (日)　〈ゴールド・アーツ・クラブ〉 16:00 / ノゾエ征爾演劇ワークショップ2019成果発表　大ホール　詳細はP.23
- 12月18 (土)　彩の国さいたま寄席 四季彩亭　平成30年度 彩の国落語大賞 受賞者の会 林家たけ平　小ホール 15:00　詳細はP.21
- 12月25 (土)　新春狂言『万作・萬斎の世界』　埼玉会館 大ホール 15:00　詳細はP.21
- 1月14 (金)　彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾『ヘンリー八世』　大ホール 18:30 / 13:00　詳細はP.4-5

DANCE

- 12月1 (日)　第8回 近藤良平と障害者ダンスチーム「ハンドルズ」による公演『こんどはね ボクのおごりで 出かけよう』　小ホール　開演時間 15:00　※チケット予定枚数終了。
- 1月17 (土)・19 (日)　Noism1+Noism0　森 優貴／金森 穣 Double Bill　大ホール　詳細はP.10-11　17:00 / 19:00 / 15:00

MUSIC

- 12月6 (金)　埼玉会館ランチタイム・コンサート第41回 きりく・ハンドベルアンサンブル　埼玉会館 大ホール 12:10　詳細はP.21
- 12月21 (土)・22 (日)　光の庭プロムナード・コンサート　第112回 トワイライト・スペシャル　キャンドル・アート・ナイトとの共同開催で、光の庭にキャンドルが灯る幻想的な雰囲気の中、オルガンと歌とのアンサンブルをお楽しみいただきます。　情報プラザ 17:00　[出演] 田上麻里 (オルガン)、北村さおり (ソプラノ)　[曲目] スウェーリンク：「御子がわれらに生まれたもう」による変奏曲 SwWV 315　A. ギルマン：ノエルのためのオッフェルトワール第4番　サン＝サーンス：アヴェ・マリア イ長調　ヘンデル：歌劇《リナルド》より "私を泣かせてください"　クリスマス・キャロル より ほか　※入場無料　※開演時間が通常と異なりますのでご注意ください。
- 12月27 (金)　「彩の国シェイクスピア・シリーズ」スペシャルトークイベント　音楽ホール 12:00　詳細はP.23
- 1月2 (土)　大塚直哉レクチャー・コンサート　オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの"平均律"　Vol.3 "平均律 wohltemperiert"の謎　音楽ホール 14:00　詳細はP.18
- 1月15 (水)　彩の国バリアフリーコンサート『躍動するリズム』　小ホール 14:30　詳細はP.21

CINEMA/EVENT

- 12月1 (日)　『山懐に抱かれて』　映像ホール　10:30 / 14:30　詳細はP.21
- 12月13 (金)　『RBG 最強の85歳』　埼玉会館 小ホール　10:30 / 14:30 / 18:30　詳細はP.21
- 12月13 (金)　彩の国シェイクスピア講座Vol.3『ヘンリー八世』徹底勉強会第1回　講師:河合祥一郎(東京大学教授)　映像ホール 14:00-16:00　詳細はP.22
- 12月8 (日)・9 (月)　『ねことじいちゃん』　埼玉会館 小ホール　10:30 / 14:30 / 18:30　10:30 / 14:30 / 18:30　詳細はP.21
- 12月15 (日)・19 (日)　『12か月の未来図』　映像ホール　10:30 / 14:30　10:30 / 14:30　10:30 / 14:30　10:30 / 14:30 / 18:00　10:30 / 14:30　詳細はP.21
- 12月26 (木)　彩の国シェイクスピア講座Vol.3『ヘンリー八世』徹底勉強会第2回　講師:本多まりえ(明治学院大学文学部准教授)　映像ホール 14:00-16:00　詳細はP.22
- 1月1 (水)　彩の国シェイクスピア講座Vol.3『ヘンリー八世』徹底勉強会第3回　講師:井出 新(慶應義塾大学文学部教授)　映像ホール 14:00-16:00　詳細はP.22
- 1月8 (水)　彩の国シェイクスピア講座Vol.3『ヘンリー八世』徹底勉強会第4回　講師:松岡和子(翻訳家)　進行:河合祥一郎(東京大学教授)　映像ホール 14:00-16:00　詳細はP.22
- 1月12 (日)　『こどもしょくどう』　映像ホール　10:30 / 14:30　10:30 / 14:30　10:30 / 14:30　10:30 / 14:30 / 18:00　詳細はP.21

日	PLAY	DANCE	MUSIC	CINEMA/EVENT
12月1 日		第8回 近藤良平と障害者ダンスチーム「ハンドルズ」による公演『こんどはね ボクのおごりで 出かけよう』 小ホール 開演時間 15:00 ※チケット予定枚数終了。		『山懐に抱かれて』 映像ホール 10:30 / 14:30 詳細はP.21
2 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			
3 火				
4 水	休館日(埼玉会館)			
5 木			埼玉会館ランチタイム・コンサート第41回 きりく・ハンドベルアンサンブル 埼玉会館 大ホール 12:10 詳細はP.21	
6 金				
7 土				
8 日				
9 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			
10 火	休館日(埼玉会館)			
11 水	休館日(埼玉会館)			『RBG 最強の85歳』 埼玉会館 小ホール 10:30 / 14:30 / 18:30 詳細はP.21
12 木				
13 金				
14 土				
15 日				
16 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			
17 火				
18 水				
19 木				
20 金				
21 土	〈ゴールド・アーツ・クラブ〉 16:00		光の庭プロムナード・コンサート 第112回 トワイライト・スペシャル キャンドル・アート・ナイトとの共同開催で、光の庭にキャンドルが灯る幻想的な雰囲気の中、オルガンと歌とのアンサンブルをお楽しみいただきます。 情報プラザ 17:00 [出演] 田上麻里 (オルガン)、北村さおり (ソプラノ) [曲目] スウェーリンク：「御子がわれらに生まれたもう」による変奏曲 SwWV 315 A. ギルマン：ノエルのためのオッフェルトワール第4番 サン＝サーンス：アヴェ・マリア イ長調 ヘンデル：歌劇《リナルド》より "私を泣かせてください" クリスマス・キャロル より ほか ※入場無料 ※開演時間が通常と異なりますのでご注意ください。	
22 日	ノゾエ征爾演劇ワークショップ2019成果発表 大ホール 詳細はP.23			
23 月				
24 火				
25 水				
26 木				
27 金				
28 土				
29 日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			
30 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			
31 火	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			
1月				
1 水	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			
2 木	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			
3 金	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			
4 土				
5 日				
6 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			
7 火				
8 水				
9 木				
10 金				
11 土				
12 日				
13 月・祝				
14 火				
15 水			休館日(埼玉会館)	
16 木				
17 金				
18 土	彩の国さいたま寄席 四季彩亭 平成30年度 彩の国落語大賞 受賞者の会 林家たけ平 小ホール 15:00 詳細はP.21	Noism1+Noism0 森 優貴／金森 穣 Double Bill 大ホール 詳細はP.10-11 19:00		
19 日		17:00 / 15:00		
20 月			休館日(彩の国さいたま芸術劇場)	
21 火				
22 水				
23 木				
24 金				
25 土	新春狂言『万作・萬斎の世界』 埼玉会館 大ホール 15:00 詳細はP.21			
26 日				
27 月			「彩の国シェイクスピア・シリーズ」スペシャルトークイベント 音楽ホール 12:00 詳細はP.23	
28 火				
29 水				
30 木				
31 金				
2月				
1 土				
2 日			大塚直哉レクチャー・コンサート オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの"平均律" Vol.3 "平均律 wohltemperiert"の謎 音楽ホール 14:00 詳細はP.18	
3 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			
4 火				
5 水				
6 木				
7 金				
8 土				
9 日				
10 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			
11 火・祝	彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾『ヘンリー八世』 大ホール 詳細はP.4-5 18:30			
12 水				
13 木				
14 金				
15 土		13:00	彩の国バリアフリーコンサート『躍動するリズム』 小ホール 14:30 詳細はP.21	

TICKETS チケット

お子様から楽しんでいただける公演です。

大ホール 小ホール 音楽ホール ＝彩の国さいたま芸術劇場　埼玉会館 ＝埼玉会館

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

CINEMA

彩の国シネマスタジオ

【全席自由・各回入替制・整理券制】
一般1,100円 小中高生550円
※料金は当日現金支払いのみ　※10月より料金を改訂いたしました。

12.1(日) 映像ホール
『山懐に抱かれて』(2019年／日本／103分)
[監督・プロデューサー]遠藤 隆
[ナレーション]室井 滋

©テレビ岩手

12.13(金) 埼玉会館 小ホール
『RBG 最強の85歳』(2018年／アメリカ／98分)
[監督・製作]ジュリー・コーエン、ベッツィ・ウェスト
[出演]ルース・ベイダー・ギンズバーグ、ビル・クリントン、バラク・オバマ ほか
※14:30回終了後、山口智美氏(米モンタナ州立大学教員 文化人類学、フェミニズム、メディア研究)によるアフタートークあり。

©Cable News Network. All rights reserved.

2020.1.8(水)・9(木) 埼玉会館 小ホール
『ねことじいちゃん』(2019年／日本／103分)
[監督]岩合光昭
[原作]ねこまき(ミューズワーク)『ねことじいちゃん』(KADOKAWA刊)
[出演]立川志の輔、柴咲コウ、柄本 佑、銀粉蝶、田中裕子、小林 薫 ほか

© 2018「ねことじいちゃん」製作委員会

2020.1.15(水)～19(日) 映像ホール
『12か月の未来図』(2017年／フランス／107分)
[監督・脚本]オリヴィエ・アヤシュ=ヴィダル
[出演]ドゥニ・ポダリデス、レア・ドリュッケール ほか

©ATELIER DE PRODUCTION - SOMBRERO FILMS - FRANCE 3 CINEMA - 2017

2020.2.12(水)～16(日) 映像ホール
『こどもしょくどう』(2018年／日本／93分)
[監督]日向寺太郎　[脚本]足立 紳
[出演]藤本裁汰、鈴木梨央、吉岡秀隆、常盤貴子 ほか

©2018「こどもしょくどう」製作委員会

PLAY

販売中
彩の国さいたま寄席　四季彩亭
平成30年度 彩の国落語大賞 受賞者の会 林家たけ平
2020.1.18(土) 15:00 小ホール
[出演] 林家たけ平(彩の国落語大賞・2席)、林家木久扇(ゲスト)、林家なな子 ほか
チケット(税込) 全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円
メンバーズ 2,700円

販売中
新春狂言『万作・萬斎の世界』
2020.1.25(土) 15:00 埼玉会館 大ホール
[出演] 野村万作、野村萬斎、石田幸雄、深田博治、高野和憲、月崎晴夫、野村太一郎、岡 聡史、中村修一、内藤 連、飯田 豪、石田淡朗
[演目]『棒縛(ぼうしばり)』、『小傘(こがらがさ)』
チケット(税込) 一般 S席6,000円 A席4,500円 B席3,000円
U-25* (B席対象) 2,000円
メンバーズ S席5,400円 A席4,100円 B席2,700円

開演前に狂言講座を開催！
2020.1.25(土) 12:30開場／13:00開講(約1時間予定)
[出演] 深田博治、高野和憲
※1月25日公演のチケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。

販売中
彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾
『ヘンリー八世』
詳細はP.4-5

発売日　一般 2020.1.18(土)　メンバーズ 1.11(土)
彩の国さいたま寄席　四季彩亭
柳家さん喬と精鋭若手落語会
2020.4.18(土) 14:00 小ホール
[出演] 柳家さん喬(ゲスト) ほか
チケット(税込) 全席指定 一般3,200円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,100円
メンバーズ 2,700円

DANCE

販売中
Noism1+Noism0
森 優貴／金森 穣 Double Bill
詳細はP.10-11

発売日　一般 12.7(土)　メンバーズ 販売中
バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン『Venezuela－ベネズエラ』
詳細はP.12-13

MUSIC

販売中
埼玉会館ランチタイム・コンサート第41回
きりく・ハンドベルアンサンブル
12.6(金) 12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
[出演] きりく・ハンドベルアンサンブル
[曲目] シューベルト：アヴェ・マリア
アダン：オー・ホーリー・ナイト ほか
チケット(税込) 全席指定 1,000円

販売中
大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの"平均律" Vol.3 "平均律 wohltemperiert"の謎
詳細はP.18

販売中
彩の国バリアフリーコンサート
『躍動するリズム』
2020.2.15(土) 14:30 小ホール
【第1部】体感するビート！
[出演]
小林陽一＆JJM ジャパニーズ ジャズ メッセンジャーズ2020
小林陽一(ドラム)、櫻井智則(テナー・サックス)、マイク・ザチャーナック(トランペット)、リン・ヘイテツ(ピアノ)、安田幸司(ベース)
[曲目] Niagara Shuffle、Moanin'、Blues March、Dat Dere ほか
【第2部】光る鼓動
[出演] 片岡亮太(和太鼓奏者／パーカッショニスト／社会福祉士)、ゲスト：山村優子(ジャズ・フレンチホルン奏者／作曲・編曲家)
[曲目] 光る鼓動、7th pride(セブンス・プライド)、大地 ほか
チケット(税込) 全席指定 一般1,000円
障害のある方及びその介助者500円
[主催] 埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会
[共催]
彩の国さいたま芸術劇場(公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団)
埼玉県障害者交流センター(社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団)
[協力] バイオニア株式会社
[公演の内容・鑑賞に関するお問合わせ]
埼玉県障害者福祉推進課 048-830-3312

販売中
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.38
ベアトリーチェ・ラナ ピアノ・リサイタル
詳細はP.14-15

販売中
サー・アンドラーシュ・シフ ピアノ・リサイタル
詳細はP.16-17

次頁へ続く

MUSIC

発売日　一般 12.1（日）　メンバーズ販売中

埼玉会館ランチタイム・コンサート第42回 春休みスペシャル
東京交響楽団メンバーによる
《動物の謝肉祭》
2020.3.30（月）12:10（終了予定13:00）
埼玉会館 大ホール
［出演］東京交響楽団室内合奏団
酒井有彩、片山 柊（ピアノ）
浦和児童合唱団（朗読）
［曲目］サン＝サーンス：組曲《動物の謝肉祭》ほか
チケット（税込） 全席指定 1,000円

発売日【3公演セット券】一般 2020.1.12（日）メンバーズ1.11（土）
発売日【Vol.39 1回券】一般 2020.2.1（土）メンバーズ 1.25（土）

2020年度ピアノ・エトワール・シリーズ 3公演セット券
Vol.39 藤田真央
Vol.40 川口成彦（フォルテピアノ）
Vol.41 ジャン・チャクムル
音楽ホール

【Vol.39 藤田真央】
2020.5.30（土）15:00
［曲目］モーツァルト：ピアノ・ソナタ第12番 ヘ長調 KV 332
シューマン：子供の情景 作品15
ショパン：ワルツ イ短調 作品34-2
ノクターン第18番 ホ長調 作品62-2
舟歌 嬰ヘ長調 作品60
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第23番 ヘ短調 作品57「熱情」

【Vol.40 川口成彦（フォルテピアノ）】
2020.11.3（火・祝）15:00
［曲目］アルカン：エスキス 作品63より
ショパン：24の前奏曲 作品28 ほか

【Vol.41 ジャン・チャクムル】
2021.1.30（土）15:00
［曲目］調整中

チケット（税込）
【3公演セット券】
一般・メンバーズ 正面席 9,300円
バルコニー席 7,800円／ U-25*（バルコニー席対象）3,000円
【各回】
一般 正面席 3,600円　メンバーズ 正面席 3,300円
バルコニー席 2,600円／ U-25*（バルコニー席対象）1,000円

発売日 一般 2020.2.1（土）メンバーズ 1.25（土）

イレブン・クラシックス
Vol.1 葵トリオ
2020.6.19（金）11:00　音楽ホール
［出演］小川響子（ヴァイオリン）、伊東 裕（チェロ）、
秋元孝介（ピアノ）
林田直樹（ナビゲート）
［曲目］エルガー：愛の挨拶
ラヴェル：ピアノ三重奏曲 イ短調
メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲第2番 ハ短調 作品66

チケット（税込） 全席指定 2,000円

発売日【2公演セット券】【Vol.4・1回券】
一般 2020.2.1（土）メンバーズ 1.25（土）

2020年度大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”
音楽ホール

【Vol.4】
2020.7.5（日）14:00
［出演］大塚直哉（ポジティフ・オルガン、チェンバロ、お話）
ゲスト：調整中
［曲目］J. S. バッハ：《平均律クラヴィーア曲集第2巻》より
第1番～第6番

【Vol.5】
2021.2.14（日）14:00
［出演］大塚直哉（ポジティフ・オルガン、チェンバロ、お話）
ゲスト：小尻健太（ダンサー、振付家）
［曲目］J. S. バッハ：《平均律クラヴィーア曲集第2巻》より
第7番～第12番

チケット（税込）
【2公演セット券】全席指定 一般・メンバーズ 4,000円
【Vols.4-5】各回 全席指定 一般・メンバーズ 2,200円

EVENT

販売中【通し券】

彩の国シェイクスピア講座 Vol.3
『ヘンリー八世』徹底勉強会

《第1回》2020.1.13（月・祝）
もうひとつの題名『すべて真実』の意味
講師：河合祥一郎（東京大学教授）

《第2回》2020.1.26（日）
『ヘンリー八世』の栄枯盛衰する男と女
――史実とフィクションの比較
講師：本多まりえ（明治学院大学文学部准教授）

《第3回》2020.2.1（土）
シェイクスピアは歴史を創る
――文化的記憶と『ヘンリー八世』
講師：井出 新（慶應義塾大学文学部教授）

《第4回》2020.2.8（土）
『ヘンリー八世』翻訳こぼれ話
講師：松岡和子（翻訳家）
進行：河合祥一郎（東京大学教授）

［時間］14:00～16:00
［会場］彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
チケット［参加費］（税込）全席自由
一般・メンバーズ 通し券3,200円、1回券1,000円
U-25* 通し券1,600円、1回券500円
※1回券は通し券に残席があった場合のみ、12月14日（土）から販売いたします（一般・メンバーズとも）。
※開場時間より先着順でのご入場となります。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。
入場時に身分証明書をご提示ください。

チケット購入方法

インターネット

SAF 埼玉県芸術文化振興財団 オンラインチケット
SAFオンラインチケットで、発売初日10:00から公演前日23:59まで受付いたします。

【PC・携帯共通】
https://www.ticket.ne.jp/saf/

メンバーズ　登録のご住所へ無料配送
一　般　【クレジットカード決済】または【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券

※チケット代の他に、店頭発券手数料（チケット1枚につき120円）が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939
10:00～19:00（彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く）
※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

メンバーズ　登録のご住所へ無料配送
一　般　【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券

※チケット代の他に、店頭発券手数料（チケット1枚につき120円）が必要です。
※コンビニ支払い後にチケット配送も承りますが、チケット代のほかに配送料（配送1件につき400円）が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口（10:00～19:00）**で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取もできます**（メンバーズは登録のご住所への配送となります）。
※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ　【口座引落】
一　般　【現金】または【クレジットカード決済】
▶ その場でチケットをお渡しします。
※手数料はかかりません。

チケット不正転売防止について
◎当財団主催公演チケットは、財団の同意なく有償で譲渡することを禁止いたします。
◎当財団が直接販売する主催公演のチケットは、購入者の氏名及び連絡先を確認した上で販売いたしております。

〈ゴールド・アーツ・クラブ〉
ノゾエ征爾演劇ワークショップ2019 成果発表一般観覧募集！

60歳以上のシニア世代に、演劇などの表現活動に親しんでいただく芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」。今年は724名が演出家・ノゾエ征爾氏による演劇ワークショップに参加しています。このワークショップの成果発表に、計100名（各日50名）をご招待いたします。舞台で輝くシニアの活躍をぜひご覧ください。

［日時］12月21日（土）・22日（日）16:00
［会場］彩の国さいたま芸術劇場 大ホール（入場無料／自由席）
［定員］各日50名（計100名）
［申込方法］
はがきに ①郵便番号・住所 ②氏名 ③年齢 ④希望日・希望人数（1枚のはがきでいずれか1日2名様まで）をご記入の上、ご応募ください。
［申込締切］12月12日（木）必着
※応募者多数の場合は抽選となります。当選者の発表は入場券の発送をもって代えさせていただきます。12月13日（金）発送予定。
［応募先］〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 彩の国さいたま芸術劇場
「ゴールド・アーツ・クラブ観覧募集」係
［お問合わせ］彩の国さいたま芸術劇場0570-064-939（休館日を除く10:00-19:00）

ゴールド・アーツ・クラブ第1回公演
『病は気から』（2018年）より　Photo◎宮川舞子

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」スペシャルトークイベント 吉田鋼太郎（彩の国シェイクスピア・シリーズ芸術監督）× 阿部 寛（『ヘンリー八世』主演）

阿部 寛

吉田鋼太郎

彩の国シェイクスピア・シリーズ最新作『ヘンリー八世』の開幕に先駆け、シリーズ芸術監督・吉田鋼太郎と『ヘンリー八世』主演・阿部寛さんのスペシャルトークイベントの開催が決定しました。開幕に向けて白熱する稽古場から、稽古や本番に向かう俳優や演出家の想いなど、知られざる一面もご紹介しながら、芸術文化やシェイクスピア作品に触れる楽しみや喜びをお伝えしていきます。皆様のご応募をお待ちしています！

［日時］2020年1月27日（月）12:00開演（13:00終演予定）
［会場］彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
［定員］604名（入場無料・要事前申込・全席指定）
［申込方法］はがきに郵便番号・住所・氏名・フリガナ・会員番号（SAFメンバーズの方のみ）・希望人数（2名様まで）をご記入の上、ご郵送ください。
※応募者多数の場合は抽選となります。入場券の発送をもって抽選結果の発表に代えさせていただきます。1月10日（金）発送予定。
※ご応募はお1人様1通まで（重複応募は無効）。
※入場券の販売を目的としたご応募は固くお断りいたします。
※SAFメンバーズ優先枠を設けています。
［申込締切］12月24日（火）必着
［申込先］〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1 彩の国さいたま芸術劇場「1/27トークイベント入場募集」係
［お問合わせ］彩の国さいたま芸術劇場0570-064-939（休館日を除く10:00-19:00）

年末年始の休業について

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館の施設利用及びチケット販売について下記の通り休業いたします。何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

施設のスケジュール
◎彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館
12月28日（土）通常営業
12月29日（日）～1月3日（金）休館
1月4日（土）通常営業

チケット販売
◎彩の国さいたま芸術劇場（窓口販売・電話受付）・埼玉会館（窓口受付）
12月28日（土）10:00～19:00
12月29日（日）～1月3日（金）休館のため休業
1月4日（土）10:00～19:00
◎インターネット販売【SAFオンラインチケット】24時間ご利用になれます
※12月27日（金）以降のお申し込みにおいて、お渡し方法【配送】でのご予約チケットは、1月9日（木）の発送となります。
※メンバーズ事務局（TEL:048-858-5507）につきましても、12月29日（日）～ 1月3日（金）は休業といたしますので、1月4日（土）10:00以降にお問い合わせください。

さいたまネクスト・シアター サテライト企画「第7世代実験室」第一回公演

蜷川幸雄没後3年半の時を経てあらゆるものに触発された、さいたまネクスト・シアターの有志メンバーが自ら企画・運営を行う新企画。演劇と観客の間を漂いながら、全く新しい形態で現代演劇の中へと再び踏み込んでゆく、実験的公演に挑戦。

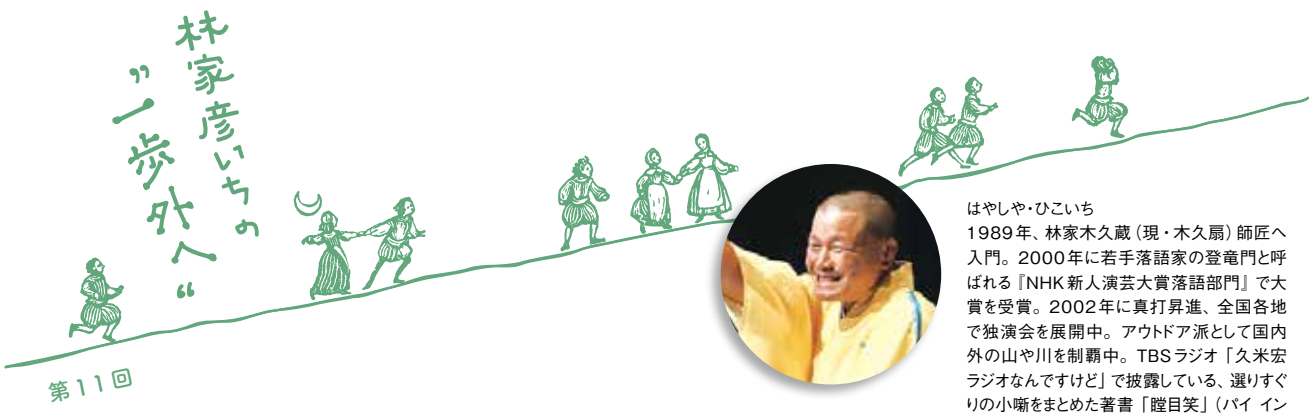
［作・演出］内田健司　［参加メンバー］周本絵梨香、内田健司、中西 晶、阿部 輝、佐藤 蛍、鈴木真之介、髙橋英希 ほか
［日程］2020年2月4日（火）～9日（日）〈10ステージ〉
［会場］新宿ゴールデン街劇場
東京都新宿区歌舞伎町1-1-7マルハビル1F
チケット（税込）全席自由　前売3,500円（振込特典有）当日4,000円
U25割3,200円（要予約・振込特典有・要当日身分証）
［公演の詳細・予約］https://stage.corich.jp/stage_main/85227
［お問合わせ］dai7sedaizikken@gmail.com
［主催］「第7世代実験室」上演委員会

サポーター会員

（公財）埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。
こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。（2019.11.15現在／一部未掲載）

㈱与野フードセンター／㈱亀屋／㈱松本商会／㈲香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／㈱パシフィックアートセンター
㈱アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／㈱タムロン／㈱十万石ふくさや／森平舞台機構㈱／東芝ライテック㈱／埼玉トヨタ自動車㈱
武蔵野銀行／ロイヤルパインズホテル浦和／アルピーノ村／国際照明㈱／埼玉スバル／㈱佐伯紙工所／㈱太陽商工／㈱しまむら／不動開発㈱
ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／㈱栗原運輸／彩の国ＳＰグループ／㈲プラネッツ／㈱デサン／セントラル自動車技研㈱／丸美屋食品工業㈱
ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット㈱／公認会計士 宮原敏夫事務所／㈱埼玉交通／サイデン化学㈱／アイル・コーポレーション㈱
旭ビル管理㈱／ヤマハサウンドシステム㈱／㈱エヌテックサービス／㈱クリーン工房／㈱つばめタクシー／㈱サンワックス／㈱綜合舞台
(一財) さいたま住宅検査センター／㈱国大グループホールディングス／オーガスアリーナ㈱／イープラス／ ㈲欅会 林整形外科／埼玉県整形外科医会
㈲山粋会 山﨑整形外科／サンケイリビング新聞社／㈱三和広告社／ショッパー／㈱松尾楽器商会／日本大学芸術学部／㈱ホンダカーズ埼玉
㈲杉田電機／丸茂電機㈱／太平ビルサービス㈱さいたま支店／㈱片岡食品／㈱協栄／㈱ヨコハマタイヤジャパン／ NTT東日本 埼玉事業部
㈱平和自動車／光陽オリエントジャパン㈱／さくらMusic Office／クワバラ・パンぷキン／東和アークス㈱／テレビ埼玉／日本ピストンリング㈱
金井大道具㈱／国立大学法人 埼玉大学／㈱七越製菓／ビーンズ与野本町／㈱コマーム／㈱原一探偵事務所／川口信用金庫／青木信用金庫
㈱和幸楽器／大栄不動産㈱／相川宗一／㈱ハイデイ日高／浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券㈱／ AGS㈱／ウォータースタンド㈱
㈱ワイイーシーソリューションズ／白神久吉／医療法人青木会／むさし証券／㈱セレモニー／三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱／㈱積田電業社
ボートピア岡部・栗橋／中央税務会計事務所／トヨタカローラ埼玉㈱／放送大学埼玉学習センター／ GARO DAYHAPPY ／㈱有村紙工
(医)たかだクリニック／ SMBC日興証券㈱／㈱アステック／㈱ジェイコムさいたま／㈱ヤナセ／㈱博愛社／トヨタカローラ新埼玉㈱／浦和興産㈱
㈱村松フルート製作所／東武商事㈱／東和銀行／㈱喜多山製菓

お問合わせ（公財）埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当　TEL.048-858-5507



はやしや・ひこいち
1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。TBSラジオ「久米宏ラジオなんですけど」で披露している、選りすぐりの小噺をまとめた著書「瞠目笑」（パイ インターナショナル）が発売中。

そろそろまた SWAやらない？

文と写真◉林家彦いち

噺家らしからぬ、いや実に噺家らしい!? 4人が再び集うとか。（写真左から昇太師、喬太郎師、白鳥師）

先日久米宏さんと笑福亭鶴瓶師匠が、ラジオのトークで「こんなに噺家さんがいて毎日どこかで落語をやっているのに、一度も落語を聴いたことがない人が大勢いる」と話していた。毎日やっている寄席でも実は初落語のお客様も少なくない。同時に常連さんも少なくない。

噺家は、日々いろんなやり方で噺を届けている。

古典落語と創作落語（新作落語とも呼ばれる）と分けられることも多いが、私の憶測では創作派は、現代の噺家千人時代で30人～50人ほどではないかと。かなりの少数派である。

そんな中、2004年、創作落語をやっている仲間でSWA（創作話芸アソシエーション）というユニットを創った。正確には春風亭昇太師匠が柳家喬太郎師匠、三遊亭白鳥師匠、講談師の神田山陽先生、そして僕に声をかけた。袖に白抜きで三本のラインの入っている揃いの着物も作った。創作脳を持ち寄り、一緒にネタを組み立てていった。とはいえ最終的には本人が仕上げて本番を迎える。それぞれの一席でもあるが、この落語会では、全体で一本になっているように聴こえる……ということをやりたかった。

途中で山陽さんが抜けた後、噺家４人で紡いでいく４席になり、何度かやっているうちに目標としていた「全体で一本もの」が完成。なんだかんだ８年活動して、休止と相成った。

始めたときから「早めに辞めよう」というのが皆の口癖だったが、「こんなことやってみよう」とやることが増えて、結構続けたことに。おかげさまでお客さんも増えていった。これまでにない試みであったことは自負している。一人では出来ないし、誰とでも出来るわけではない。

古典落語も先人が創作し紡いだものだから、幹は変わらないはず。そしてこの４人がそれぞれ誰かいないと立ってられない者ではない。というかほっといたほうがいい面々。噺家はたった一人で完結するものであることは百も承知で、落語は古典落語！という流れも二百もガッテンではあるのだが、やらずにはいられなかったようだ。

だが数年前から誰ともなく「そろそろまたやらない？」と。日々忙しく、油断のならない曲者連中。でもやることにした。「SWA」再始動。まず新しい着物を作ってみた。

何かが起きる前は実にワクワクする。

twitter
演劇担当 @Play_SAF
舞踊担当 @Dance_SAF
音楽担当 @Music_SAF
埼玉会館 @saitamakaikan
Facebook 彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater
埼玉会館 @saitamakaikan
Instagram 埼玉会館 @saitamakaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第84号（12月−2020年1月）
2019年12月1日発行（隔月1日発行）
発行人: 竹内文則
発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500